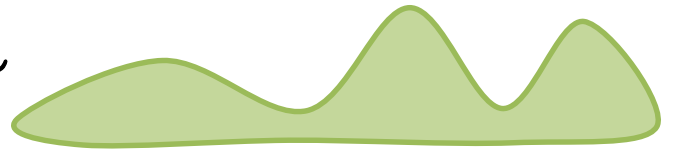


巨理の里山 ～関連地名等～



巨理町まちづくり協議会

巨理	「わたり」は街道が川を渡る所の名称で全国に「渡」「渡利」などの小地名がある。巨理は、阿武隈川を渡るところから出ているのであろう。「巨理」の地名は『続日本記』（667～791年）に出ている。
吉田	葦（アシ→ヨシ）が生えていた湿地の原野を開いて農地にした。 「葦（アシ）」は「悪（アシ）」に通じるので、「よい」の意の瑞祥地名「吉」にしたのだろう。田は「処」の意。
長瀬	瀬（トロ）は、流れのゆるやかな所や泥をいう。湿地で土質がゆるい処をいうのか。又は、緩傾斜地をいう。
猿田	猿（サル→ザレ：山の崩れやすい地形）田＝処
阿武隈山地	地層から見れば、古生代の2億5,000万年前からでき始め、中生代（6,500万年）には花崗岩が盛り上げるなど、長い歴史の中で地層が形成された。その間に、巨理側と角田側が断層により沈下（年代は特定出来ない）し、残って出来た山地をいう。割山層は、宮城県で最も古い地層に入ると言われている。巨理の山並みは、低い割りには傾斜が急で、崩れやすい地形が多い。
四方山	この辺りでは一番高く（272.0m）、四方が良く見えるので、そう呼ばれたらしい。戦時中に、砲台が造られようとしたが、間もなく終戦になり、造られなかったという。 山頂に、雷神・蛭神を祭る。山頂で雨乞いをしたという。『伊具郡誌』
黒森山	255.0m、崩れやすい地を「クレ」という。その「クレ」から黒（クロ）になってのではないか。森は山の意である。里山全体は、低い（200m前後）割に急斜面である。かつては、草刈り山・芝刈り山であった。 地形測量の一等三角点があり、関心を持ち訪れる人がいる。山から黒森沢が流れ、その沢の奥に「入会林野整備事業完了記念山」の碑がある。吉田中学校の校歌に「黒森四方山清く、わだつみの音絶ゆるなき、巨理平野にそびえたる」と歌われている。
月山神社	月の神で曆をつかさどる月夜見命を祭っている。 鳥居は、明治37年～38年（1904～1905年）の日露戦争の凱旋記念として建立された。
夜討坂	戦国時代（435年前頃）に、伊達氏が相馬氏に夜討ちをかけた時に通ったからという。『伊具郡誌』 割山峠や明通峠が開通した後は、通る人が少なくなった。
山神の碑	当時、この夜討坂を越えて、巨理と角田との通行があった。荒浜の魚を売りに行ったり、角田の中学校（高校）に通ったし、東根からは、巨理町の町場に買い物に来たと聞いている。山神は、安全に通行できるようにと祈った碑であろうし、休憩場所でもあった。また、日常生活の峠越えだけでなく、山の東（巨理）と西（東根）の間に、婚姻関係もあった。
閑居山	204.4m。麗の地名は、大雄寺の坊さんが、隠居して住んだ静かな所という意味で閑居と名付けられた。 その近くの山ということである。
足尾神社の碑	鴻ノ巣峠付近の崖の上にある。かつての人々は峠を安全に越えられるように祈ったのであろう。
鴻ノ巣峠	かつて、このあたりにコウノトリが生息していたので、そう呼ばれたという。『伊具郡誌』には、「坂津田区橋沢より巨理町に通ずる処にて路基だ険峻にして人馬の往来最も不便である」と記録されている。付近には、山神の碑と馬頭観世音の碑がある。
愛宕沢	愛宕山近辺の沢のこと。砂防ダムがある。びっくりする位に急に水かさが増すので、「動顛沢」とも言われた。
愛宕山	151.0m「おはたごさん」と呼ばれる。全国的に存在し、京都愛宕神社（火伏せの神）の分霊を祭る。
割山峠	明治政府の殖産興業のもと、巨理町から梁川に抜ける主要道路。明治15年（1882年）に山を割って開通。 昭和54年（1979年）に改良され、直線的になった。